

支え合いの地域づくり活動ーしおかぜ光南台ー

※世帯数及び人口は令和4年1月31日現在

南区	小学校区・地区名	甲浦学区	世帯数	2,159世帯	人口	4,758人
----	----------	------	-----	---------	----	--------

■組織の概要

『しおかぜ光南台』は、光南台学区を中心に、有志で構成された団体である。中でも、災害時における高齢者の早期避難は、重点課題である。そこで、高齢者への見守りと防災を一体的にとらえ計画している。

■活動の取組内容

- ① ボランティアの発掘・育成と具体的運営に向けた組織づくり
- ② 『暮らしの困った』何でも相談所「ささえあいサロン」づくり
- ③ 高齢者のネットワークづくり（サロン活動を通して）
- ④ 災害時の効果的な避難の在り方の検討
 - ・災害時の避難場所を複数用意し、状況に応じた対応を図る
 - ・「自分の身は、自分で守る」啓発と研修
 - ・『備えない防災』の啓発
 - ・日常で使うものを非常時にも役立てる「フェーズフリー」と「ローリングストック」の活用

■めざす活動の効果

- ① 災害時における「車を活用したグループでの早期避難」
 - ・高齢者が高齢者を移送し避難
 - ・季節・昼夜の区別なく避難活動ができる集団づくり
- ② 人間関係に配慮した避難所の在り方
 - ・避難所での人間関係に配慮したグループづくり
 - ・避難所での相互扶助
- ③ ペットを伴う避難所の運営
 - ・ペットの飼育場所の確保（居住スペースとの区別）
 - ・飼育ルールの啓発と徹底
- ④ コロナ禍での避難所生活（動線を考えた避難スペース）
 - ・感染症拡大防止対策と避難所レイアウト

- ⑤ 高齢者世帯への見守り活動の強化と情報の共有化
 - ・安否確認の工夫と手立て
- ⑥ 向こう三軒両隣の近所付き合いで安全・安心な毎日
 - ・こまやかな声掛けと見守り
 - ・黄色いハンカチなどでの確認方法の工夫

■活動の課題

- ① ボランティアの発掘や育成と組織づくり
- ② 高齢者のネットワークづくりに向けたサロン『みやのうら』の有効活用
- ③ 災害時における「車を活用したグループでの早期避難」には、避難所の整備と避難路の確保が重要
- ④ 人間関係に配慮した避難所の在り方
 - ・広い避難所が不可欠
 - ・人間関係に配慮したグループづくり
- ⑤ ペットの避難所の運営には、
 - ・避難所の飼育ルールをきめる
 - ・ペットと居住スペースは分ける
 - ・避難者とペットの動線は、出来るだけ別にする
 - ・飼い主の車で、ペットと同居も考えられる
- ⑥ コロナ禍での避難所生活（動線を別にした避難スペース）には、
 - ・地震、台風、豪雨災害等それぞれの災害に対応した避難所の運用が必要
 - ・密集は、できるだけ避け、ストレスのない空間づくり

■工夫していること

- サロン『みやのうら』の有効活用
- ・サロンでの人間関係づくり
 - ・『あっ晴れもも太郎体操』

【協働する団体等】
 しおかぜ光南台
 社会福祉法人 翔洋会
 宮浦女性防火クラブ

